（九日夕刊）

磐城新聞

定價（一部金三錢、壹ケ月金五十錢、郵税十錢）
廣告料（一行三十錢特定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

書いた表紙□□□

雄野勇の詩集を見て

高瀬勝男

最近は頓と線な本を讀んでない、情け氣になると無精に、もの事が億うになつて、入浴するのさへやつの思へだ、それも手拭ぶら下げて錢湯に行くにや行くか、やつ介なのわ變りなくやはりやつ介なものだ、顔知りにや一通り挨拶もしにやならないし、金も借りてりやお世辭も用だしな、人ゝ死にや亦悔も義理だだからといつて繪ばかりわ書かない譯にいかない。世の中には俺みたひなきまぐれ者もあこかなあと今日も寢ころんで煙草をふかして終ふんだ。

雄野勇が詩集をよこした『顔と樹』仲間じやあ頭のいゝ男の作品だ、にこ〳〵しながら書き溜めた作品が一冊の本となると、恰度下しをにかけた娘にいゝ婿出來たと同じく、嬉しひものだらうから彼の氣樹をその儘、俺も自重して讀んだ讀んだには讀んだが合併ど怠けもの附ひてる日に貰らつた詩集でどうも實が入らねね、お禮だけわしてたひたかね、親切な評なんか出來るものでねね、只感想だけだね、といつてた世辭も俺達の禁物だ

充分な洗練された技巧で全編に、山の暴風雨、直行車、顔と樹、構圖の四編を貫ね、山の暴風雨直行車わ思想的懐疑から抜けきらうとするまたマンネリズムに止まつて、私の凱歌を上げ様とする機の内面的鬪爭が隨分まごつひて居る

疑劍な點ど。うぬぼれながら、どうも目立つてぴつたりと俺わ、この道を進む人間だの言葉がたりない。轉べわあつち、こつちのプチブル的我儘、脈が薄い感じだ、理想主義的、人間歡迎とでもいをうが社會にたげる手留彈わ生ぬるひ悲憤慷慨でわ役にたゝないのだ、もつともつときりつめた線で、なせ君達わ勇敢になれないのかと熱と力をつきこんでやりたいのだ、繪畫にしろ音樂にしろそうであるのだが、自分の主觀を英雄的に、それも、しつかり立つた現實の喇叭卒でありたひ、地を潜つても闘へといふ時に觀念にとらわれたり迷夢を露らして（直行車）（戰爭）の一行『群がりの中に躍りこめそしてそこにかもされてゐる呼氣の如何に伸き苦しんでゐるかを呼吸するのだ』此處だ、此處に先驅者の實際があるのだ

顔と樹、構圖

美くこいが弱い、誇張な詩の形式としたら、頭の良ひこそわ申分ない、前編に、跳ね上らうとする抱げる惱が此處でわ、即興的に樂な足踏をしてる、正直なところ、たいらわどこでもなねこゝなんだと書いてある

早ひ話が只スケールを直行車、山の暴風雨に取つて見た[illegible]さと、ロマンチストになりすまして居る、多角形的な技巧、新鋭な覺觸が性格化されて氣持がいゝ山の暴風雨直行車が最近であれば、俺わ今後の活躍を待望し、顔と樹、構圖が道しるべあつても御隨意にと詣うしかない、客觀的な圖形が決して彼を輕侮に導びきわしならだらうし、勿論王觀的な半面ね詩作する人達の快哉です。

ラジオの將來に就て

ラヂオが將來どこ迄發達するかは到底豫想の限りでない。然し砲術師が砲術によつて目に見えない遠い標的に命中せしめる事が出來るやうに　研究並に技術の進歩より歸納して十年又は二十年後にラヂオが大体どの程度まで進歩發達するであらうか、先づ豫想されるのはテレビジョンの完成である。

世の中の出來事を家庭に居ながらにして、見たり聽いたり出來るのも時期の問題であり、之と共に家庭に於て發聲映畫が大いに利用せらるゝであらう。商業方面では無線電話が増加して交易は益々盛んになるに違ひない。

短波長、殊に超短波長の研究が積まれて現在の波長の外に、新らしい無線回路が發見されるであらう。斯くて波長問題並に受信方法が一新されるならば、空電や自然の妨害による困難も大いに緩和され、今日無線回路の少い爲め、重要な通信にのみ限られてゐるラヂオの世界の、如何なる僻陬の地にも及ぼす事が出來るであらう。文字の送受信が發達して今日の電信技手は一九五〇年迄には影をひそめる。

即ち、無線電信は暗號を用ふる手數もなく、鍵記や印刷をその儘送る事が出來るであらう。寫眞、繪畫指紋、商業文書等も一瞬にして太洋や大陸ヶ超えて送達され新聞の如きは、現狀を其儘世界何れの地にあつても再製せられるであらうと思はれる。

無線電信も短波電信網に對する實驗の結果、世界各地の通信が自由自在にビジネスに一般生活に利用せられるであらう。國際間放送プログラム交換も遠い將來ではあるまい。

斯くて無線科學の發達は殆んど停止する處を知らずに、今後益々進んで行くのである。

芳醇無比

白馬の雪

松本徳一吟釀

電話（平）七五二

小説　死を超ゆる者（107）

三上於菟吉作　布施平八郎畫

江間先生（二）

「わてねの店で……三圓なんぼの賣溜を盗んで追ひかけられて逍へ落したさ言ひくさる」

みんなついて呉れ

「イヤ待つて下さい」

と青年は言つて、件の神さんをかへり見た

「どうでせう、相手がこんな小娘だから賣溜は只今私から辨償するとして、許して下さいませんか？」

「それは、金さへ戻りやあ」

と神さんは澁々言つた

「いかん」と巡査は言つた

「餘罪があるかも知れん」

「それなら私も警察署へ出頭しませう」

と青年は言つて、懐中から錢入れを出して名刺を巡査に渡した

「私はかういふもです」

巡査は一瞥した

「ふゝん、君は孤兒院の…

「はゝあ。それなら三圓なにがし盗まれたといふのでね？」と言つて青年は倒れたまゝ啜り泣いてゐる少女に屈み寄つて

「どうしてお前は金など盗んだのだ」

「たつかさんが病氣なんだもの……だ醫者が診をしないからつて診に來てくれないんだもの……」

と娘は咽び泣きのひたから言つた、そしてまた聲を出して泣いた

「お前の顔を見ると、嘘を言ふ兒ではないことが解る」

と青年が言ひかけた時、例の巡査は冷笑した

「だ泥などに解るものか」

餘計なことをせずに引込めさあ、置へ來い邪魔だから

「やゝ孤兒院の江馬先生だ」とその時集まつて來た腕白連のひとりが叫んだ。

「先生、々々！」と連れの二三人が叫んだ

○市の孤兒院はこの都市で特殊な勢力を持つてゐたらしい

「ふん、孤兒院の人ならた任せしよう」

若い巡査はさう言つた

江馬先生と呼ばれた青年は例のかみさんに仕拂つた

そして少女を扶け起して塵を拂つてやつた

「もう二度と悪いことをしてはいかんぞ、一度のあやまちは罪では無いこのたちさんもお金を盗んだことがあるのだ」

「やーい、江馬先生も盗んだことがあるとよ！」

と悪太郎どもがはやし立てた

「さうた、僕も盗んだことがあるのだ……金を、しかし二度とは盗まない」

と彼は笑ましげに振返つた、その悠然とした顔をやゝへだたつたところからぐつとみつめてゐるひとりの紳士があつた。

中國○市の賑はしい夕べの町で虐げられてゐる搔つ拂ひの小娘を助けてやつた青年は泣きじやくりをしてゐるその憐れな少女を勵ますやうにこの自分を且つては亦物を盗んだ經驗があると言ひ放つた時集まつて居た町人は呆氣にとられた顔をした。悪太郎共はたゞもうわい〳〵と囃立てゝ居るばかりであつた。けれども彼は平然として小娘の肩に手を置いてしづかに何事かを言つた

廣告

上田醫院
平町南町
電話一二九番

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

高久病院
平町田町
電話五一三番

營業種は　石炭　コークス　玉炭
磐城第一の石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入　壹俵　金　六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス　壹俵　金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御徳用ナ○ツノ玉炭
一、玉炭　大箱壹箱　金　貳　圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前　阿部石炭商店
電話二三七番

靴の御新調は……今
時節柄……空前の安賣
キカイ製靴より安心なる
定評有る大塚の自製靴を
流行新型ゴロフ形
△ボックス革實用　短靴　七、五〇ヨリ　編上靴　九、〇〇ヨリ
△赤革　スポート　短靴　九、〇〇ヨリ　編上靴　一一、〇〇ヨリ
修繕二十四時間内迅速安價
大量製産　堅い店
平町田町　大塚支店製靴部
電話七〇二番

緊縮と輸入防遏
純國産品で正確堅牢なる
セイコー腕時計を
皆様へ切に御薦め致します
◎宣傳の爲め抽籤特賣
一等　復興債券（額面百圓）六十本
二等　蓄音器（三笠號市價七十五圓）百二十本
三等　置時計（八日町マホガミ　市價三十五圓）三百本
四等　目覺時計（角形市價六圓五十錢）千三百五十本
五等　机上時計（市價二圓廿錢）五萬八千三百本
（期日十二月三十日迄空籤なし）
特約店　大谷時計病院
電話一九番

伊勢崎
八王子
足利
優秀新柄銘仙陳列
於階上
秋冬物新柄特選陳列と実用品特賣
十月三日ヨリ七日間
モスリン着尺
モスリン友仙
入選新柄陳列
於新館
三井呉服店

大和田醫院

平町紺屋町
吉田眼科醫院

婦人病には美神丸を

こんな徴候の人は
一時も早く治療すべし
● 血帶下赤帶下コシケ多き人
● 下腹痛く節張り又はつる人
● 子宮冷込、腰脚の冷え又は痺れる人
● 月經不順月經時に腹の痛む人
● 神經衰弱ヒステリーの人
● 月經時の前後に白粘つたこしけが下る人
● 子宮痳毒尿意頻の人
● 子宮痒く糜爛出血する人
● 局部惡臭かゆき人
● 逆上、頭痛、耳鳴、眩暈する人
● 肩が凝又は背が痛む人
● 流產、早生する人

美神丸の主治効能
白帶下　子宮内膜炎　子宮痳病（消渇）子宮出血
子宮痙痒　子宮糜爛　月經不順　陰門惡臭　子宮下り及ゆがみ　肉腫痳毒に起因する不姙症等
不感症（愉よきを知らぬ病）

一日藥價僅か五錢の
自宅療法

救世の婦人藥
美神丸は（安價、簡便、卓効、秘密の四つ揃つた理想藥です）

定價表

一週分	四〇
二週分	八〇
五週分	一、八〇
十週分	三、五〇

地方代理店
平町五丁目角　山野邊藥局

一町一村に一特約店を募集す
速刻希望者は申込あれ

警察官を援けて犯罪防止に助勢

消防組や團体を通じ

平署の希望數々

平署では秋も深まり冬季になると種々の犯罪が多くなるのに鑑み署員を督勵して犯罪防止に努める一方民衆と共力して犯罪を豫前に防ぎたいと各町村消防組を初め公共團体を通じ共に注意し警察官を援けて欲しいと云ふ意味の宣傳に努めてゐるが一般に注意を促したい條項を左の如く發表した

盗難豫防上の注意

一、晝夜を問はずなるべく一家全部不在にせぬこと

二、夜寢るときは必ず電燈を消すこと

三、夜寢るときは庖丁、鉈、鎌、斧、薪割、金槌の樣な刃物は「キチン」と始末すること

四、戸締を嚴重にすること

五、すれた古い螺旋込み錠は取り替へること

六、外燈は体裁や通行人のためばかりでなく盗難豫防となる

七、稻はなるべく早く安全の所に片付けること

八、稻を田甫に置く時は整頓よくし他人に紛れない目印を付けること

九、夜中の電報又は來客には用心しなるべく戸を開けずに用を足すこと

盗難に罹つたときの注意

一、なるべく抵抗しないこと

二、あはてず犯人の人相風体、着衣、聲色、其の他の特徴を見屆けること

三、犯人の足跡、犯人の手の觸れた處の遺留品（忘れ物）は其儘にして置くこと

四、なるべく早く駐在所派出所、警察署に屆出ること

其の他の注意

一、犯罪事件に關した事を警察官から聞かれた時は殘らず話下さい

二、犯人の現場は犯人捜査に大切な處ですから近寄らない樣にして下さい

三、犯罪捜査に參考になることは進で警察に知らして下さい

訴ひ出て籔蛇

平署で大眼玉

平町鎌田小野なをは同人の土地を借て家を建てて居る江尻辰三郎が契約期間が來ても立退かぬとて家の側に溝を掘つて家を傾けたから何とかして貰ひたいと江尻から平署人事相談所に願出たことは既報の通りだが平署で七日兩名を呼び出し取調たところ江尻はなが女世帶なのにつけ込み數年間地代も拂はず時々はなを怒鳴り散らして居たことが判りやぶ蛇となり大眼玉をいただいた上今月中に立のくことになつた

緊縮宣傳を利用し保險加入を奬勵

田村局長以下總動員で

平局の如才無さ

平郵便局では仙臺遞信局の命令に依り現緊縮内閣の方針に則り節約貯蓄の奬勵をなす事となり過般來田村局長以下其の實行方法について協議を重ねてゐたか、此の機會を利用し管内全般に亘り緊縮、節約、貯蓄について大宣傳を行ひ、其の實行方法として郵便貯金、郵便年金、簡易保險に加入する樣を奬勵させる事となり此の程郡内各町村長、郵便局長、各小學校長に對して公私經濟緊縮の大運動が起きてゐる、此の際國民の義務として互に出來得る限りの節約をなし貯蓄を勵行する樣に努めねばならず、其の貯蓄の方法としては簡易保險或は郵便年金等を利用する事が時機に適してゐる旨の趣意書を擴布し田村局長以下幹部級の局員全部が出動して大童となつて勸誘をなす事になつたと

五十八年前の今日

安藤信正公の死

放江庵主人

冠里侯以來代々風流の殿樣で且つ名君を出し、幕閣の樞機に參與してゐました磐城平の城主で幕末の賢宰として、坂下門外の兇變に危く落命する所を脱れた、渠對馬守信正は、幼名を欽之進と申し、字は君修晩年鶴翁と號し、其他に欽齋、蟠翠軒の雅號があります

×

亡友西村雪八嘗て磐城中學校長時代渠の愛用したといふ印顆を得て筆者にその印影を示したのを所藏してゐますが、それには「號敬所」とあるが別號でありませう。

×

萬延元年老中に進んで專ら外國の事に接衝しました、從來の老中は洋夷と蔑視して直接外臣に面謁しなかつたのでありますが、渠は堂々として之に面接し、所信を披瀝し樽俎接衝しましたので、外臣間に信用を博したのであります。殊に米使のハルリスとは昵懇であつたと申します。櫻田の兇變以來攘夷黨が大いに跋扈しました際に處し、渠は敢然として外事を執掌して夏七月普魯西の使節が來航して通商を請ふた時、その約款を訂欽し、フト自國外の獨逸聯邦まで連署してゐるのを發見して之を徐斥させました。その時外國奉行であつた、堀利熙はこの件に關して過失の責を引いて屠腹しましたのを、攘夷黨の壯士等が誤解して渠の獨斷專行を誅死したものとし翌文久二年正月十五日、登城の途次を要撃したのが坂上門外の兇變であります

×

剛氣活達な渠は重傷を負ふたのですが屈せず登城、御用部屋に入りました所、餘り出血が多量なので、已むなく歸邸加療してゐました。併し內外多事渠をして靜養の閑を與へませんので繃帶に瘡痍を包んで執務精勵したのを見て、外臣等もその至誠に感激して讓歩欽訂したとあります。

その年四月とうと激務職に堪わず辭職しましたが、在職中の成績に、渠の就職前決定した―安政年中―長崎、横濱、新潟の三港を解放して互市場とする件は時機尚早の故を以て延期させまた樺太の境界を偉度五十度の地點と定めた事など著名にあつたりました。同年八月幕命で在職中不正の廉ありといふので減封され、家督は幼嗣進之助に相續させられ、修身禁錮といふ重刑に處せられたのでありますが併し四年にその錮禁を解除されました所、偶々戊辰の大革命に相遇して奥羽列藩と同盟し、官軍と戰ひました所、明治元年十月平は落城して、渠は脱出して相馬山中を過ぐる際、雨中

旅人の歩みもしばし
たはむらん
村雨そゝぐ花の萩原

と詠じ仙臺城に入りました奥羽鎭定後復明命で終身禁錮されましたが、翌年九月赦免され、間もなく卒去しました。

×

渠の外交政策は頗る强硬で文久元年水野筑後守を小笠原島に派遣統治させ本邦領土に確認させた事も特筆すべきでありますが、餘りに機鋒銳利であつたから、兎角誤解をうけ易く賣國の賊とまで嘲罵されたのは遺憾でありました。

運轉手注意

植田署で警告

植田警察署では去る四日午後七時より管内自動車營業者並に運轉手を同署內に召集し近來頻發する事故の防止方に付き訓示したが、保安課の方針として今後反覆二回以上事故を起した時は運轉手免許の取消し或ひは營業停止の嚴重なる處分を爲すこととなつたので今後一層事故防止に努力するやう注意を喚起せしめたものである

支那人の行商人が平町に九家族

鮮人くるめて郡下に八百

何れも困しい生活

石城郡地方に在住する朝鮮人、支那人の數は約五百數十名あり家族を合算すると約八百名の多きに達してゐる、朝鮮人の多くは炭礦、土工等に服し朝鮮人の一部と支那の大部分は吳服屋、飴屋、パンヤ、支那そば屋等で炭礦勞働者より或る程度の資本を要する收入は多いが最近不景氣の煽りを食ひ之れ等商人は炭礦勞働者よりも生活不安に脅かされる狀態である、而して平町には支那人吳服屋三人、支那人そば屋六人の合計九家族が現住し夫れ〴〵營業を續けてゐるが吳服屋は勿論行商で一日二十圓から最底七八圓の賣上げで三圓乃至二圓位の純益を見てゐる一方そば屋の方は一日六圓乃至三圓位の賣上で利益一圓乃至一圓五十錢低度で何れも可成り窮迫した悲慘な生活を續けてゐるとの事である

酌婦行爲の女給お灸

四名を告發

平町驛前カフエーステージ外一軒の女給佐藤まさ（一九）外四名は過般平署の特別執行の際酌婦行爲をなしたこと發覺し八日平署に引致され嚴重說諭されたがいよ〳〵荒井署長はこの種營業者に對し嚴重なる態度に出ることゝなつた

菊多實校議員 石城郡植田町菊多實業專修學校は植田町外二ケ村の組合立であるが組合會議員は山田村を除き改選されたので八日これが初會合を同校內に開催し出納檢査立會人の選擧を行つた

晩秋繭は下向

二十日頃大詰

石城郡地方に於ける最終の晩秋蠶は此の十日頃から二十日頃まで出廻る豫想であるが相場は漸次尻上りになつて來た傾向に反し十月上旬に於ける取引相場より下落をなすものと豫想されつゝある、これは此の晩秋蠶は天候が不順となり暴風雨的な天候が連續した當時に飼育した關係から一般に繭の品質が極めて不良なのと横濱に於ける市場の相場が變動した結果とに依るものであるが、後から後からと掃立をなして來た養蠶家は最後になつて相場が惡くなつて來たので最初の豫想を裏切られた形であるが、石城郡に於ける繭は此の二十日頃まで〻出廻りが終了するものと見られてゐる

平町地方に賊頻々

犯人目星つく

石城郡平町地方に最近頻々として盗難事件あり飯野村の土藏破り、湯本町の伊達屋に於ける四百圓窃盗、平町鐵道合宿所等未だに目星つかず平署では犯人檢擧に大童となつてゐるが、ただ土藏破り犯人だけが目星ついただけで地方民は戰々恂々としてゐる

死兒の後を追つて慈母が鐵道自殺

きのう內郷村地內の

死体の身元判明

內郷村御臺境地內鐵道下り線路上に八日朝若い美人の轢死体あるを發見平署で檢死したけれども身元判明しない旨前報したが其の後調査の結果右は湯本町品川白練瓦工場內職工貞吾の妻織內マサ子（二三）と稱し五日生家である內郷村に一泊したが歸宅せず家人が捜査中のものであつた、マサ子は本年一月中男兒を分娩したが去る八月十五日愛兒が死亡して以來極度に悲觀し彼の世に行つて子供と一所に暮したいと口走つてゐたので或は厭世自殺をしたものであろうと

入遠野村購買 石城郡入遠野村折笠利一外二百名がかねて申請中の同村一圓を區域とする購買組合はこの程許可の指令があつた

自動車に觸れ小學生怪我

植田署取調中

平潟町貨物運輸業小野喜八方雇運轉手松本松次郎（三七）は七日午後三時半ごろ茨城第一二五七號貨物自動車を運轉し石城郡錦村大字大倉地內國道を疾走中運轉を過まり電柱に激突其機みで傍らを通行中の同字小學校六年生鮫川はな子（一三）を彈ね飛ばし全治三週間の重傷を負はせたので運轉手は植田署に引致取調べを受けた

平町の虎眼

檢査日割

平町役場では左記日割を以てトラホーム撿診を行ふことゝなつたが日割と撿查醫師氏名左の如し

十四日　新町、長橋町
十六日　研町、古鍛冶町
十八日　五丁目
廿　日　久保町
廿二日　八幡小路、揚土
（鈴木亮）

十五日　材木町
十七日　鍛冶町
十九日　三丁目
廿二日　搔槌小路
廿四日　立町
（新妻幸之助）

十四日　田町
十七日　仲間町
十九日　鐵官、大工町
廿一日　南白銀
廿三日　北白銀
（吉田芳太郎）

十五日　南町
十七日　鎌田町
十九日　堤ノ內、月見町
廿一日　四丁目
廿三日　新川町
（星恒明）

十六日　紺屋町
十八日　一丁目
廿　日　二丁目
廿二日　舊城跡
廿四日　北目町、胡摩澤
（吉田安雄）

平一校運動會 平町第一小學校の秋季大運動會は來る二十三日同校々庭に於て開催の筈

手當增額を要求し集配人怠業

斷然拒絶されて尻込み

四倉局の珍事

石城郡四倉町四倉郵便局集配人四名はこの程不景氣となつて來たので從來の手當では生活出來ないから手當を增額して貰ひたいと菅波局長に要求したがこの要求に對して局長は追つて回答する旨申渡したところこれに滿足せず即刻要求を容れて貰ひたいと局長を威嚇したので憤慨した同局長は直ちに四名を解雇したが今更の如く驚いた四名の集配人は同町の有志某々に依賴して復職運動をなしつゝあるとのことであるが郵便局集配人が罷業を斷行したなどゝいふことは全く珍らしいことである

營業部員

年齡二十二歲以上、身体强健にして新聞業務に趣味を有する眞面目なる營業部員一名を募集す希望者は履歷書持參本人午前中に御來社あれ、給料その他委細面談

磐城新聞社

磐新塔

石城郡赤井村大字鹽田服部正勝（三〇假名）が隣村の娘橋はな（一六假名）のところに忍び込んだところを同村の青年連に發見され捕へられて散々毆打された事は既報の如く平署並に平檢事局の活動となり取調中であつたが正勝はその後の經過惡く遂に死亡したので平檢事局では右事件を別方面から取調を開始した、事件は單なる傷害よりいたものであるが長い間同地方に慣例的に行はれてゐた風紀問題がその根元をなしてゐるため同檢事局では事件を重大視し愼重なる態度を執つてゐるので注目されてゐる

訂正 本紙二六五四號第二面末段御遊學とあるは『御慶事』の誤りにつき謹んで訂正いたします

魚群を呼ぶ光

久の濱から縣で最初

四倉署に願出て

双葉郡久の濱町新妻勇一氏は電氣漁獵をなすべく四倉署に屆出でをなしてゐたが電氣漁獲の方法は久の濱海岸沖合に夜間高燭の電氣をつけ魚類が其附近に集まつて來た頃に網を以て捕獲するので本縣內では未だ曾て行はれたことのない方法であり

もし此の方法で成功すれば民間に於ける定時漁業上に一大變革を生ずることになるべく、この計畫は各漁業家から注視されてゐる

人命救助

知事から表彰さる

石城郡大浦村補充兵根本要草野村同新妻忠次郎、同村步兵上等兵鈴木喜三平、同一等卒大和田友光の四氏は去る八月十八日午後一時頃新舞子濱海岸で同草野村字下神谷大和田彌助（三四）があやふく溺死せんとするのを發見、直ちに激浪をついて飛び込み麻繩を利用して四名協力の上遂に同人を救助したことこの程佐藤福島聯隊區司令官の耳に達し近く表彰されることになつた

四倉水商旅行

石城郡四倉水産商業補習學校三年生は十七日から三泊四日の豫定で日光中禪寺湖方面修學旅行をなす

▽紺屋高尾で名高き
浪界日本第一の人氣者
篠田實師大一行
各地共入場料平土間金八十錢
巡業日割地
十月十四日（一日）平町　聚樂館　開場
十月十五日（一日）四ッ倉町　四倉座　開場
十月十六日（一日）宮炭礦　昭和館　開場
此度は巡業日先々興行契約濟左通り日割にて絶對に日延なし（前賣券發賣所各商店にあり）
平町　高橋演藝部

〈ト〉萬屋貨物運輸部
電話二一七三番
萬屋與一

十日寫眞替　木曜日
大衆の求め映畫人の渴望を收めて此名篇に
日活會社超大作千惠藏映畫サガノ作品
低回趣味　**繪本武者修業**　特作映畫
治亂興云を過ぎ春風に眠求屋かる珍な
武者修業に出でたのが此映畫の物語りです
悅樂、勇壯無比の一週

原作　田中敏樹
◇阪東妻三郎…主演
新撰組隊長（最終篇）
連續映畫　**近藤勇**
虎松の宅に新撰組土方一味が襲擊した、坂本龍馬の一命は突如亂爭

日活松竹
土曜日學生デー
平館
電四六六

◇鈴木傳明…主演
萩野秀夫、田中絹代助演
（彼・東京）（彼と田園）
三部曲　**彼と人生**（姉妹篇）
私しの名は遠山達夫と云ひます馴染ノ藝者と箱根に行つたら親爺に見つかつて、私しの人生が新らしくなつたのです

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
和洋銅鐵金物問屋　㊇　**釜屋商店**
磐城セメント株式會社特約代理店
諸橋久太郎
電話　九番　一三九番
振替貯金口座　東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一二四番